学校法人大阪産業大学は平成30年11月に創立90周年を迎えました。

学園創立90周年 **理事長メッセージ**

「学校は公共のもの」自覚して行動を

吉岡 征四郎 理事長

鉄道学校としてスタートし、時代の変遷とともにその時代に求められる人材の育成に取り組み、今日まで学園を受け継ぐことができました。これも地域の皆さま、卒業生や保護者の皆さまの厚いご支援によるものと感謝しております。改めて、「学校とは公共のものである」という原点に立ち、学校運営にあたっていきたいと考えています。90周年は節目でもあり通過点であります。今後の私どもの行動指針として10年後を見据えたビジョンを策定し、教員や職員を挙げて学園全体のガバナンス向上に取り組んでいます。また、大学、附属中学校・高等学校、桐蔭中学校・高等学校の各校それぞれの特色を生かし、高大接続など多様性を高めて総合力を発揮してまいります。

学園のミッションは、知的自立心を育む、あるいはそのきっかけを与えることです。基礎学力を身につけ、生涯をかけて向上心を持ってがんばる姿勢を養うことは、創立者・瀬島源三郎が唱えた建学の精神「偉大なる平凡人たれ」を継承するものであり、「深い人生観と広い世界観」を持った心豊かな人材の育成に他なりません。また、これからの時代には、グローバルな視点を兼ね備え、地域で活躍できる人材が重要であり、大阪東部エリアで大きな期待が寄せられています。学力、姿勢、そして広い視野の育成に教育の軸足を置き、変えるべきものと変えてはならないものを見極め、いつの時代も社会に選ばれる学園でありたいと願っています。

学園創立90周年 **記念鼎談**

大阪産業大学
中村 康範 学長

大阪産業大学附属中学校高等学校
平岡 伸一郎 校長

大阪桐蔭中学校高等学校
今田 悟 校長

写真左から平岡伸一郎校長、中村康範学長、今田悟校長

偉大なる平凡人たれ

創立者の遺訓・「偉大なる平凡人たれ」を教育の核に、90年の歩みを進めてきた大阪産業大学グループの3校。それぞれの学長、校長にこれまでの成果やこれからの教育指針などについて話を聞きました。

学園90周年までの歩みと各校の特徴を教えてください。

中村▶ 1928年に3年制の大阪鉄道学校として創立したのが学園の始まりです。大学は1950年の大阪交通短期大学の設立を経て、1965年に大阪産業大学が工学部と経営学部でスタート。現在は、6学部13学科を有しています。開学当初より「実学」に重きを置き、大阪東部エリアの地域における中小企業との連携など社会で役に立つ学びを実践しています。

平岡▶ 附属高校は、学園発祥校として90年のルーツがあります。実業科を持ち多くの卒業生を輩出してきました。現在は普通科と国際科の2学科5コース体制で、大阪産業大学への進学を進路のベースに、勉強とクラブ活動双方に地道に取り組むことを目標としています。

今田▶ 1983年に大阪桐蔭高校は附属高校の分校としてスタートしました。勉学では難関国公立大学の合格を目標に、スポーツや芸術では全国トップクラスの実力養成に、それぞれ取り組んでいます。今年は、東大・京大・国公立大学医学部医学科に78名の合格者を輩出し、硬式野球部が史上初となる2度目の春夏連覇を果たすなど、高い実績を上げています。

創立者・瀬島源三郎が掲げた建学の精神「偉大なる平凡人たれ」を踏まえた、各校の教育の指針をお聞かせください。

中村▶ トップに立っても、そうでなくても人のため社会のために尽くす、社会に貢献できる人間を育てる教育が軸としてあります。実学に焦点を当て、有能な人材育成に尽力しています。

平岡▶ 「徳」「知」「体」の3つの力を伸ばすことで、人間が作られていくと考えています。「継続は力なり」、勉学もクラブ活動も両立し、コツコツと地道に励む、真面目な生徒を育てることが本校の指針であります。

今田▶ 「難関国公立大進学」「甲子園出場」は、「平凡人」と矛盾するように感じますが、毎日の着実な勉強・練習の積み重ねがあってこその結果です。また、本校を訪れた方々から「挨拶をきちんとする」と、嬉しい言葉を頂く機会がございます。目標実現のために「努力できる人間」とともに、「誠実で心豊かな人間」を育むことも私たちの役目です。

変化する社会に対応する人材育成の考え方や課題について、どのようにお考えでしょうか。

中村▶ 変化する社会への適応力、つまり「生きる力」をつけることが重要です。大学で学ぶ学問の知識はすぐに古くなりますが、学生らには、基礎的な知識力や情報を集めて解を求める応用力、他者と協働する力を備えてほしいと考えます。加えて、現在はプレゼン力や踏み出す力なども必要。そのため、変えるべきもの、変わらないものを見極め、カリキュラムに組み込んでいます。

平岡▶ 鉄道学校時代は国鉄への就職が目標でしたが、今は大阪市内から通ってくる生徒が多く、高校の先に大阪産業大学への進学を考える生徒がほとんどです。附属校の強みである大学との連携で高校・大学の一貫教育により、グローカルに地域で活躍できる人間を育てたいと考えています。

今田▶ 中学・高校は、大学、社会で芽を出すための「種」を作る期間であり、生徒たちにさまざまなことを経験する機会を提供することが大切だと考えています。桐蔭の特色である勉強とスポーツ・芸術の鍛錬を通して、つらいことにも耐えられる「生きる力」をつけてやりたいと思います。また、人とのつながりの重要性に気づける教育にも力を入れていきます。

各校が連携した取り組みについてお聞かせください。また今後はどのようなプログラムを予定されていますか？

中村▶ 大阪桐蔭の理科研究部などの生徒らに、大学の最先端の実習や実験を体験してもらうプログラムが始まっています。理科教員を志望する大学生がサポート役に入ることで、双方に良い刺激をもたらしているようです。附属高校では、大学の模擬講義を行い、これまでにのべ400人の生徒が参加しました。また、附属高校と大学の国際学部が連携し、語学研修の特別クラスを編成するプロジェクトが今年の4月に発足しています。来年3月には、合同でニュージーランドに出発。「高大接続グローバル人材育成プログラム」として、大阪産業大学入学後の単位認定も視野に対応を進めています。運動部においては、指導者の交流や施設の共同利用などを行っています。

学園では新しい展望「Vision100」が発表されます。100周年に向けた抱負をお聞かせください。

中村▶ 大学の講義としての正課、プロジェクトなどを通して工夫する中で身につける正課外の実績を両輪に、大学教育をさらに深化させていきます。また、国際社会に通用するグローバルな視点と地元に貢献できる力を持ち、地域に開かれた大学、すなわち地域に必要とされる大学をめざしていきます。

平岡▶ 大阪市内にある私立高校として、「大阪産業大学への進学」という存在意義をしっかりと持って運営をしたいと思います。90周年からさらに10年後に向けて、地元で評価される学校になることが目標です。

今田▶ 進学実績や運動部、吹奏楽部の活躍もあって「結果」での評価を多くいただきますが、「充実した中・高時代が過ごせるから行きたい」と、教育環境そのものが評価される学校でなければなりません。改めるべきは改め、新しいものも取り入れながら、次の100年に向かいたいと思います。